災害時 鍼灸で支援

AMDA養成講座に30人

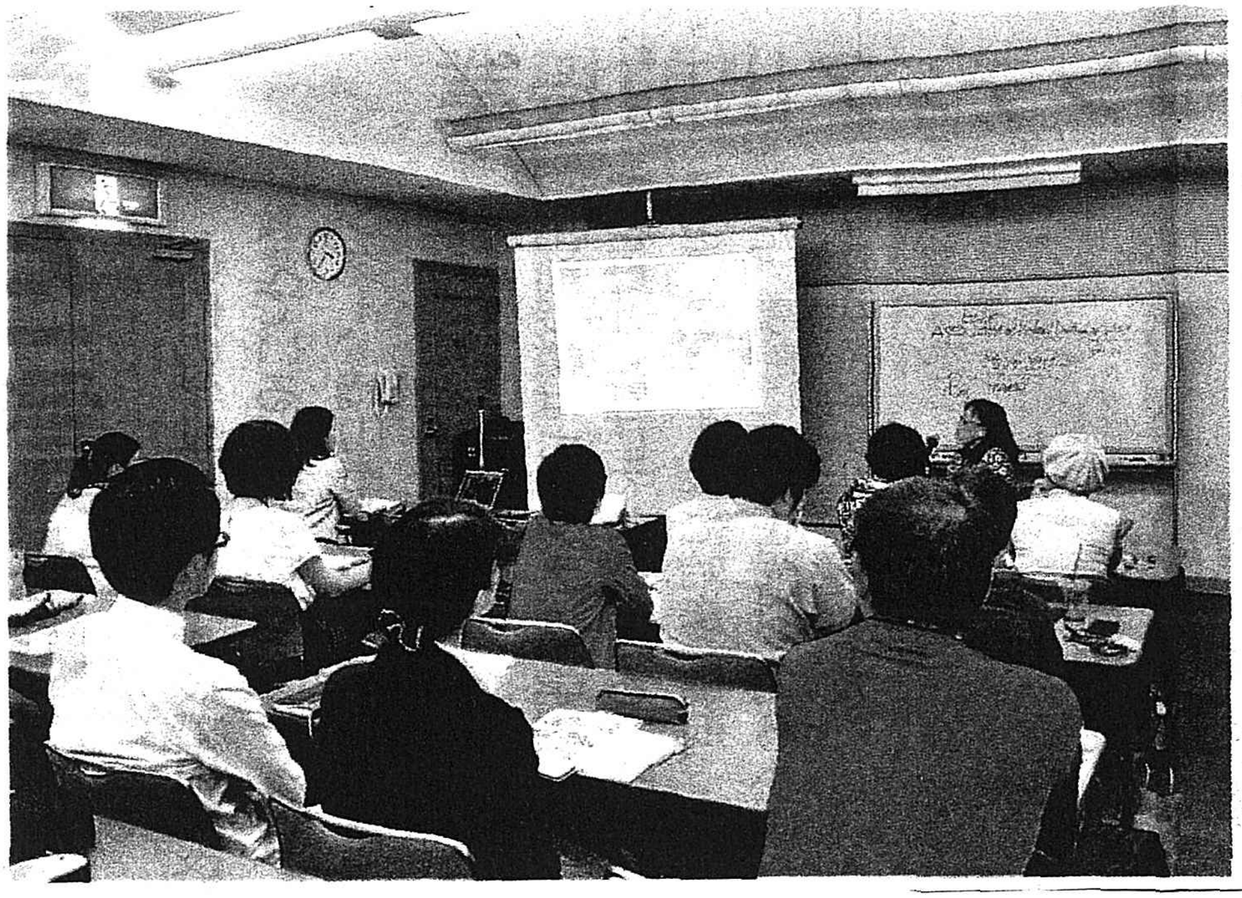
国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）は8日、災害時に被災地で活動する鍼灸（しんきゅう）師の養成講座を岡山市内で開き、約30人が受講した。近い将来の発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備え、AMDAが進める医療支援体制構築プロジェクトの一環。

AMDAは、2011年の東日本大震災で緊急医療支援チームの一員として鍼灸師を初めて派遣し、被災者の体と心をサポート。今年4月の熊本地震では延べ29人を被災地へ送り、約千人に治療を実施した。こうした実績を踏まえ、災害時に活躍できる専門家の育成を急いでいる。

講座には現役の鍼灸師や志望者が参加。AMDAの菅波茂代表は「被災地でスムーズに活動するには日頃からの人間関係、ネットワークづくりが欠かせない」と説明。AMDAが岩手県大槌町に開設した施設内の鍼灸院で治療に当たる佐々木賀奈子さんは「鍼灸院は治療だけでなく、地域の人たちが集う場にもなっている」と意義を強調し「自分にできる活動を続けることが大切」と呼び掛けた。

養成講座は13年度にスタートし、3回目。過去2回は岩手、宮城県で開いている。

（伊丹友香）



災害時の鍼灸治療の意義について理解を深めた養成講座